

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり、糸魚川の児童生徒の皆さんには、やはり平等な教育というものは与えられるべきだと捉えております。そういう中で、今いろいろな個々の特徴なり性格なり、いろいろ持った人たちがおられるので、なるべく今のある学校で対応できればいいんですけども、そういう学校でなかなか対応できない児童生徒については、それに対応していくことが大切だろうと思っております。やはり少子化の中においては、きめ細やかな教育で対応していくことが、我々糸魚川市の行政としての責任だろうと思えますし、そういった形でしっかりと育てていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原洋子議員。

○6番（田原洋子君）

今回ひすいルームに限って質問したんですが、ひすいルームには、能生の能生ルームもあって、能生ルームは、月、水、金と毎日ではないとか、午前中だけであったりとかいうのもあります。なので、先ほど学びの多様化学校の話も出ましたが、それだって、あしたすぐ造れるわけではないと思います。糸魚川市の学校に行きたいんだけど行けないとか、学びたいという意欲がある子供に対して、本当に糸魚川市全体で子育てをしていくんだ、子供たちに関わっていくんだという強い意志を持って、教育を進めていただきたいと思います。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（保坂 悟君）

以上で、田原洋子議員の質問が終わりました。

ここで、2時35分まで休憩といたします。

〈午後2時28分 休憩〉

〈午後2時35分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。〔16番 古畑浩一君登壇〕

○16番（古畑浩一君）

お疲れさまでございます。一般質問もね、一番最後の大トリということで、お疲れのこととは存

じますが、もうしばらくお付き合いをお願いをいたしたいと思います。

それでは、通告書に基づきまして、一般質問をさせていただきます。

それでは、旧東北電力ビル解体工事4度目の入札不調はどういうことなのか。

(1) 不調の原因とは何か。

(2) 本年6月議会で当初見込み5,600万円を9,800万円に大幅増額したのになぜ不調なのか。

(3) 総務文教常任委員会では、解体工事の増額補正は行わないと市長は明言されていらっしゃいますが、これを信用していいのか。

(4) 駅北子育て支援複合施設の建設日程に支障などないのか。また、建設費、年間維持管理費等、増額のおそれはないのか。

次に、市内中学校いじめ事件に対する学校現場及び教育委員会の対応につきまして、お聞きいたします。

(1) いじめ・不登校の推移と現状。対応はどうなっているのか。

(2) タブレット紛失事件に端を発した一連のいじめ事件の概要と教育委員会、学校側の対応に問題はなかったのか。

(3) 総務文教常任委員会では、重大事態ではないと報告されたが、一転、重大事態とされ、追加調査とされたが、その経緯と現状についてお聞かせください。

次に、市長選挙について。

来春、行われる市長選挙について、12月になっても進退を明らかにしないのは、あまりにも無責任と思われます。進退を明確にすべきと思いますがいかがでしょうか。

以上で、1回目を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

2番目の1点目につきましては、現時点ではお答えすることができません。

2点目につきましては、基本計画の概算で5,600万円と見込んでいたものが、解体設計の見積により、9,800万円となったものであります。

3点目につきましては、委員会のときの答弁も現時点の答弁につきましても、入札執行中でございまして、予算の範囲内で執行できるよう努めてまいります。

4点目につきましては、解体工事が遅れた場合は、本体工事の工期等への影響が懸念されます。

また、工期が延長された場合は、整備費などが増額となるおそれがあります。

3番目につきましては、私といたしましては、市長職は非常に重いものと受け止めておるわけでございまして、まだ私自身も判断ができてない状況でございまして、よろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁

もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、いじめの認知件数は、4 年度は 1 0 0 件、5 年度は 1 3 7 件、6 年度は 1 0 月末現在、7 7 件であります。

各学校で継続的に児童生徒の人間関係を把握したり、アンケート調査を行うなど、未然防止、早期発見、即時対応に努めております。

また、不登校児童生徒数は、4 年度は 4 9 人、5 年度は 7 2 人、6 年度は 1 0 月末現在、5 4 人です。

不登校につきましては、校内及び校外適応指導教室での支援や家庭訪問等を行い、一人一人に応じた支援に努めております。

2 点目につきましては、いじめ問題専門委員会の調査報告で、教育委員会及び学校の初期対応に不備があったとの強い指摘を受けております。

3 点目につきましては、いじめ問題専門委員会による調査終了後、状況に変化があったため、重大事態として捉え、追加調査を行っております。

経緯や現状の詳細につきましては、追加調査中であることや個人情報に関わることで、関係者の意向もあることから、回答を差し控えさせていただきます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16 番（古畑浩一君）

順番を変えてね、市長選挙出馬につきましてなんですが、米田市長、一緒に議員も同じクラブでやってました。それぞれ与党として、そのときの市長にご出馬のご意向を聞くというのが、我々与党派の務めでございました。

でもね、過去、私も木島長右エ門さんとか山田紀之さんとか、いろんな方々の出馬表明の時期、もちろん米田市長にもお聞きしました。けど、歴代市長の中でこの 1 2 月の末になって、自分の進退を明確にしなかった市長はいませんよ。それは市長、あまりにも無責任ではないでしょうか。糸魚川の未来を憂うからこそ、自らもう 1 期やりたいんならやりたいってしっかり意思表示すべきだし、自分のこの糸魚川の未来をちゃんとした人に託したいと思うなら、やはりもっと早くに辞意を表明して、新しい市長を皆さんの中で選んで出してくださってやるべきじゃないですか。いかがですか、市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常にご提言ありがとうございます。私といたしましては、やはりこの時々の考え、その年齢だとか、やはりその時代時代、そういったところを考えた中で私は判断をしまいいりました。そういう中で、今冬につきましては、非常に市長職というのを重く受け止めておる次第でございます。そのようなことで表明はできませんが、しかし、これは私の問題であり、だからといって、ほかの人たちが立候補を抑えることも私は、ないのだろうと思っております。

そのようなことで、私といたしましては今の状況の中では、そのようなお答えをさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

出馬する、しないかはね、ご本人の、いわゆる勝手だと私もそう思う。

けどね、もう既に勝手が許されるほどね、米田市長、あなたはそういう小物じゃないです。やっぱり市長選挙を連続5期、市議会議員の経験も長い。もうそれだけの大人物でありますよ。あなたが辞めたと、または辞意を表明するまでは、新しい方は、やっぱり特に自民党系は手を挙げにくいでしょう、挙げた勇気ある女性の方もいらっしゃるんですけどね。やっぱりそういったことが、ネクストの時代を創り上げていくための一つのプロセスといいましようかね、大事な時期だと思います。このまんま、年を越してしまうのは、私としては大変残念でございます。後輩として認めてくれるんなら、やっぱり言いたいですけど、そこら辺の進退は、もっと早く言ってほしかった。後は市長にお任せをいたします。

それでは次に、入札不調4回連続ってやつね、これちょっとお聞きしたいんですけどね。これももう一度、今まで渡辺栄一さん、東野さん、それぞれお聞きになってるんでね、何回聞いても不調の原因は言えないと。なぜ不調になったのかは、まだ入札が完了してないので細かいことは申し上げられないということなんでね、それは、そこはまあいいでしょう。

ただね、本年6月議会で当初見込み5,600万円を9,800万円に大幅増額しましたよね。これは何でなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

当初5,600万円と見込んでおりましたものは、基本計画策定時に解体費用5,600万円と見込んでおりましたけれども、昨年度、令和5年度に解体の詳細な設計を行った結果、予算を9,800万円ということで、6月補正でお願いしたというものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

これは、大幅に9,800万円に増額しましたよね。このときの積算根拠の甘さにつきましては、この議会でも、総務文教常任委員会でもおかしいじゃないかと。幾ら何でも76%ですか、の増額というのは、予算を考える上でも計画行政というものを考えて、長期ビジョンをつくる上においても、ある程度どのぐらいかかるかというのの大きな目安になると。それについて額が違い過ぎるということで問題になって、委員会では否決、本会議では通りましたよね。

もう一つあるんですよ。今、物価の高騰だとか、何だそういう人件費のアップといいますけど、この金額ですね、この9,800万円が議会を通過したのは6月、で、第1回目の入札が7月に行われてますよ。その7月のうち、中に何か大変動があったんですか。大幅に鉄鋼だとかそういう人件費だとかが倍以上に上がっていくとか、何か大変革でもあったんですか。それを見越して、積算し直したのがこの9,800万円じゃないんですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

令和5年度に設計を行いまして、積算された金額に基づいて9,800万円ということで6月補正で計上させていただいたものでございます。ですので、その設計に基づいてということで、適切に金額を算出したというふうには思っておりますが、現状、入札の中では不調が続いているというふうに認識しております。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

何回も言うようにさ、全ての計画というものはね、予算計上をして、ある程度の見込みの中において、その予算の中に収めるようにして、いろんなものを造っていくんです。橋だって道路だって、もう釈迦に説法ですけどね。その根幹をなす予算が大幅に崩れるようであっては、ましてや4回も不調に終わるようであっては、計画行政も何もないじゃないですか。だったらやるとだけ言って、幾らかかるって聞いて、幾らですと言われたら、じゃ幾らねとやればいいんだ。予算なんかいいじゃないですか。我々も予算をしっかりと見る必要もないわね。

でも、計画行政とかさ、計画財政って、そういうもんじゃないんでしょう。ある程度予算を立てて、幾らで終わるかという見込み、それに沿って計画を進めていかなくちやいけない。これはやはり積算根拠、それが甘いんじゃないですか。これ、誰ですか、積算したの。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

一般のやはり予算取りにおきましては、ある程度概算で上げていきます。そして、実際その中で、設計をしっかりと組んで発注する仕組みになります。そういうことで、このたびは、やはり基本計画ですよね、計画の中での概算は5,600万円という見込みであったわけでございます。それからまた、やはり少し時間もたってるわけでございまして、正式に積算いたしましたところが9,800万円ということで、ご理解いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

あのね、どうしてこんな予算が上がったかって一般の市民の皆さんに説明するなら、それで通るでしょう。

しかしね、議員として最初っからこの計画は幾らぐらいで進むんだろうって、ずっと見てきた人間に対して、それはないでしょう。蓋開けたら高かったよ、ごめんね、差額見てくださいというふうなのは、ちょっと甘いんじゃないですかね。

それから、1つ気になるのが、東野議員の昨日の質問で使われた、これ何だ、不落の意味というのは何ですか。さっきも渡辺さんが聞いてましたね。不落随意契約とは、一体何を指しているんですか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

不落随意契約とは、再入札2回で落札業者がなかったとき、その差が僅かであるときに、最低業者の方と随意契約の交渉を行うものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

この不落の、いわゆるね、使ったことないんですよ、この議会では、糸魚川では。不調と言います。不落ってのは何ですか。応札した業者がいたってことですね。いいですか、入札の決定がなされないうちに何者が応札したとかなんとかって言っちゃいけないことなんですよ。応札があったと、ないとも言っちゃいけない。あなた言いましたね、問題ないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、古畑議員から質問が、不落ということで質問があったので、財政課長はその中身についてお答えさせていただきました。

市は、委員会等で一貫して不調というふうに申し上げております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

昨日の東野議員のときにおいてはさ、入札業者と、確かにあったと、そう言ってますけど、議事録確認してください。

○議長（保坂 悟君）

暫時休憩いたします。

〈午後2時52分 休憩〉

〈午後2時53分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

この件につきましてはね、そこはやっぱりなぜ4度も、いわゆる不調になったのか。その中における応札した業者が何者あったのか、どうなのかってこっちも聞きたい。けど、それを聞いたら駄目なルールになってます。これは、入札が完了してないから、事前にそれをやることも聞くことも駄目です。これは、総務文教常任委員会ではっきりさせたいと思いますけどね。

それから、今の論議でいくと、あくまでも計画であって、その次に、今度は解体した後に建てられるであろう子育て支援施設についても、過去に3億円だろうって言われたのが5億円になって10億円になって、12億だって言われたら、パブリックコメントで市民に発表する段階では15億になってきましたよね。その分の今回の解体費用だとか土地の取得分を引いたとして12億5,000万円だということで、こないだ通りましたよね。私は、公共事業というものは、必ずアップしてくるから、これは認めるべきではないでしょうとやりましたけど、多くの議員さんたちがね、そこに賛成したんで、ここは責任取ってもらいたいと思うんだけど。この子育て支援施設、この建設費も同様に上がってくるとか、そんなことはないですよ、市長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり入札に応じて応札いただいた金額で決定した分については、それで決定されたと捉えております。変更にあるとしたら、物価の高騰だとか、諸般の事情の中において、お互いに契約の中で認められる範囲の中では、そういったことが起き得ることが、以前もありますし、これからもあると思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

これからあったって困るんですよ。限られた予算の中を論議をして、予算を通して、今回、DBOに決めたんでしょ。その中において、事業やってみたらやっぱり建設費足んないわと。またそれ繰り返すんですか。

キターレの場合は、何も建てない、貯水槽を埋めるんだ、上はこういうふうにするんだって話が、じゃテントを建てようって話になって、これなら雨天でもイベントができるって話が、いつの間にか箱物になって、その箱物が2階建てのキターレになった。だけど、そのときはもう私は議員じゃない。帰ってきたら、キターレはできていましたが、2階建てではなくて1階建てになってました。これも、ちゃんとして議案を通した後ですよ、議案通した後、議会の承認も得ないで、あなた勝手に2階建てを1階建てに計画変更して通しましたね。そういうことを、またやるつもりなんですか、私なら許しませんよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

2階建て2階建てといいますが、ほんの一部だけ2階だったわけでありまして。物置と、やはりスペースが多いから事務的にも使えますねという範囲のものでございまして、お話を聞いてると、全て総2階のような捉え方をしますが、決して、そういう状況ではございませんでした。

そして、やはり金額をしっかりと抑えることが大事という形の中で、そうなったということをご理解いただきたいと思います。

ご承知のとおり、入札をして、やっぱり工期の長いものについては、その間、物価が上がっていく部分がございます。それは、やはり請負業者の責任ではないものがあるわけでありまして。そういったところについては、これはもう国の、やはり国もそうですし、県もそうですし、当然、我々自治体もそうでございますが、物価スライド制の中で工事受注をしていただいたわけでございますので、やはりそういうような経緯を認めたときには、受注価格が変動する場合があります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

おっしゃることは何となく分かりますけどね。上げ幅、前に76%も上げてしまったこともあるんでしょう。当初の見込みであって、じゃその見込みならって計画を進めて、じゃ工事に入りましょうといったら76%も上がる。これ、今回も一緒になるんじゃないですか。計画行政ってのは、そういうもんじゃないでしょ。常に予算に縛られながらも、実現をその予算の内にしてやるのが普通なことだ。

ただ私、もう一つ信用できないのは、今回もそうですけどね、前に特別随意契約で権現荘にやったときだって、初めて聞いた言葉だった。だから、何か初めての言葉を使うときは、何かまた、ごまかされているんじゃないかなと私は思ってしまいます。難しい専門用語を使ってね、ごまかすんじゃないくて、ちゃんとやってもらいたいと思うんですけど、いや、しかしこの際ですよ、この計画が遅れるってことはないと言ったね、ぎりぎりだけど。けども実際、ビル壊す解体工事だけはある程度しょうがないとしても、子育て支援施設については、もうやめたらいかがなんですか。

さっき、田原洋子さんの質問にもあったように、不登校の数なんて去年の倍以上でしょう、ねえ。この不登校の数やいじめの相談数なんて軒並み上がってるのに、その肝腎の、いわゆるひすいルールだって何だって地震が傾いて1年以上もそのまま、今ほとんど使えない状態で、静かにしなくちゃいけない図書館を使って、そこに対応する。スピーディーにその対応していきたいといったって、全然スピーディーじゃないじゃないですか。だけど、この子育て複合施設の12億5,000万円があれば、造れますよ、直すこともできるし。市長、今日は誰だ、阿部議員さんがね、やっぱり聞いたけど、やっぱりこれから老人福祉も福祉介護施設も、未満児保育だって、予算さえあれば、全部おっしゃってることが実現できるんじゃないですか。もうさ、ある程度ここまで来て、下がれなくなる気持ちは分かるけど、やめて真に市民が必要とする制度やそういうものに予算を切り替えたらいかがでございますか、市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ほかの議員にもお答えさせていただきましたが、やはり計画をしてきております、この事業につきましては、多くの方にいろんなご意見を聞いております。今おっしゃるように、反対される方もおるでしょう。

しかし、推進をしていく。また、推進してほしいという声もあるわけでございますので、私いたしましては、今まで進めてまいっているこの事業については、計画どおり進めさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

もうこれだけ言ってもね、もう駄目なんでしょうけど。とにかく、予算はこれ以上、びた一文出せませんのでね。その限られた予算の中でしっかりとやっていていただきたい、見直した予算の結果なんでね。

それから、不落の随意契約につきましては、建設省のほうから、そういうことは厳に慎むようにと。これ、後であげるね。

不落随契の原則廃止等その他厳正化についてとあります。必ずしもやり方が推奨されるものではないし、基本的にはちょっと談合の疑いもかかってしまうんでね、あんまりよくないんだそうです。十分お気をつけください。もう、私もうるさいことを言うのは嫌ですからね。その点を十分留意してやってもらいたいと思います。

ちょっとね、次のいじめ事件に対してね、行きたいと思います。もう15分も使って、すいませんでした。すぐに行きたいと思います。

このね、やっぱりいじめの問題、いじめ・不登校のさ、現状と対応につきまして、教育委員会では本当にどういうふうにお考えなのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

いじめの認知件数については、先ほど教育長が申し上げたとおりです。昨年度の1,000人当たりの発生率、いじめのほうは55.6であります。全国は57.6と、ほぼ全国水準であります。不登校のほうについては、糸魚川市は29.2、全国は37.2と。この数字が少ないからいいとかいうわけではなくて、やっぱり一人一人に寄り添った対応というのが大事だと思ってます。

いじめについては、早期認知、それから全職員で対応する。それから一人一人に合った支援をしていくと指導していくというふうなことを基盤にして、各学校で取り組んでいただいております。不登校については、いろいろな状況の子供がおりますので、これについても、先ほどありました、ひすいルームでしっかりとエネルギーをためてもらって、できればその子の希望にもよりますが、学校復帰を目指して支援していきたいと思っております。

不登校のほうについては、これはもう年々多くなっております。大きな問題として捉えて、教育委員会全体、それから学校と連携しながら、また、関係機関とも連携しながら対応していきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

コロナとかね、インフルエンザじゃないんだから、全国の平均レベルですとかって言われたって駄目でしょう。いじめや不登校は、やっぱりゼロを目指してもらわないと困りますよ。

では、なぜいじめや不登校がこんだけ増えたのか、その理由につきましてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

お答えいたします。

一般的な回答になるかもしれませんが、やはり社会的な環境の変化に応じて、やはり様々な子供たちの生活スタイルが変わったり、あるいは遊ぶ関係の中身が変わったり、友人関係との関わり方がまた変わったり、様々な複雑な要素が絡んでるんじゃないかなと。特に家庭で過ごす時間の中の生活リズムを含めまして、だんだん何か規律っていいでしょうか、一定的なパターンの生活みたいなものも、なかなかしづらくなってきたというふうな要素も加味してるやに思います。価値観の多様化等も含まれますし、保護者の考え方も、それぞれに多様であります。それから子供たち自身の学ぶ意欲なんですけれども、やはり非常に多様化しているというふうな部分のところもいろんなアンケートを通して考えております。だとすると、やっぱりなかなか特定できない。これだというふうに決めつけるような原因みたいなものは、なかなか見つけられないでいる。やっぱり大きな関係の中では、やっぱり環境の変化と同時に人と人との関わり方が、やはり以前とは随分変わってきてるのかなということについては、十分に私どもも受け止めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

基本的にはさ、立派なことおっしゃってますけど、言ったことをやってくださいよ。さっき言うようにさ、相談ルームとかひすいルームとか、そういうこともなくしてさ、何でその生徒に寄り添ってどうのこうのって言えるんでしょうか。

ここはやっぱり私のところに今回の件、特にいじめ、重大事件の件について、いろんな方々が相談しに来たり、その被害者の会の方もいらっしゃいます。今回の質問は、私の独断ではなくて、そうした被害者の会の方々の声を、基づいてやります。生徒のプライバシーに関わることは、一切質問いたしません。私が問うのは、教育委員会と学校現場の対応のまずさですよ。今回指摘された多くの問題も、そこに行きつき、最終的には重大問題まで行ったのは、間違いなく、あなた方のせいですね。

それではお聞きしますが、今回の初期対応のまずさがSNSによるいじめに発展し、中学生のみならず高校生を巻き込んだいじめ大事件となり、被害者総数、生徒総数が19人以上にも上る今回の混乱を招いたんじゃないでしょうか。

やはり、この証言の中の多くは、学校側も教育委員会も、今回の事実を初期段階で隠蔽しようとしたんじゃないですかって言ってます。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

調査委員会のほうから、学校、それから教育委員会の対応について指摘をいただけてます。タブ

レットの紛失時、1台目のタブレットの紛失時の対応について、不適切であった。それから、その紛失当時、紛失時のマニュアルが市としてなかったこと、それから学校として1台目がなくなったときに、持ち帰りの禁止や鍵のかかる保管庫での保管というような措置を取らなかったことが、2台目の紛失等につながったということです。そこについては、大いに教育委員会は反省し、今、再発防止として、マニュアルの作成、研修会の実施等を行っております。

実際、私たちが、学校、それから教育委員会がこのいじめの事案を知り得たのが、令和5年4月13日、生徒からの訴えにより、不適切な画像、それからメッセージの送信が明らかになりました。その後は、学校や警察等と連携しながら対応してきたつもりであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

今ほどの課長の答弁に、ちょっと補足をさせてください。

初期対応が非常にまずかったということについて、学校と教育委員会の責任があるというご指摘だと思います。確かに、今ほどタブレットの端末がなくなった、1台目がなくなったときに、これはもう完全にいじめの事案として預かっていれば、しっかり認知して預かっていれば、いじめの対応としての対応できたわけですけど、その認知が、まず、なされていなかったということが、非常に危機管理なさの甘さ、それが、まず大きな原因です。それは学校と教育委員会、同じような問題意識の中で過ごしてしてしまったものですから、フリーしてしまった。2台目に、また紛失があったわけですけども、それもまたいじめなんですけれども、いじめの認知という形にしっかりとカウントしなかった。要するに、いじめの事例として挙がってこなかった。それについて対応するというふうな部分についてのアクションが、何も起こさなかったということが、そもそもやっぱり初期初動の一番の大きなまずさということで、専門調査委員会からの強い指摘、評価を受けたという内容が、最初の第一歩のスタートが、大変間違っていたということの反省でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

なるほど、そうだったんですかってね、納得したいところなんですけど、事実は違うでしょ。このタブレットは2台なくなりました。この2台がなくなって、さあどうしようかということをやってるうちに、生徒さんの自宅から発見された。それは母親を伴って返還されたはずですよ。母親は、この件について、まるでうちの息子が取ったようなので、警察を入れてぜひ調べてくださいって言ったけど、そのとき教育委員会はどうしました。記録読んでるんでしょう。

○議長（保坂 悟君）

どなたが答えますか。

〔「休憩お願いします」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

暫時休憩いたします。

〈午後 3 時 11 分 休憩〉

〈午後 3 時 12 分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

3月に2台のタブレットが発見されたときに、教育委員会と学校のほうで連絡を取り合いました。そのとき教育委員会の担当者と学校のほうで話して、見つかったので、これでよかったという言い方は悪いかもしれませんが、ほっとして、それ以上追及しなかったというところ、この点についても調査委員会から、対応が不適切であったというふうな指摘を受けております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

実はここからがね、この1つのいじめ事件を複雑に、奇々怪々にするスタートなんですよ。

いいですか、タブレットが2つがなくなりました。この2つは、生徒の家から発見された。親御さんがちゃんと学校へ持ってきてくれました。そのとき学校は、年度末もあつたし卒業生もあるし、これ以上みんなに聞き取るのも大変だから、これはもうお母さん、これ以上、追及しませんよ、大丈夫ですからって。じゃ、このタブレットどうしますか。学校で掃除してたら見つかったってことにしようって、やりましたね。それを文書にして保護者に出そうとしたんですが、それがいつ、4月9日です。そうですね、いかがですか、その件については事実ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

お答えいたします。

掃除をしていて、結局それが見つかったということの内容については、今までいろいろな意見交換とか情報交換した中では聞いたことのない話でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

この件についても、書類見せてあげたいけどさ、実名いっぱい出てるんで、これ駄目だろうね。年度末の整備って書いてますね。そういうことを向けて、保護者に対して配ろうとしましたよ。年度末の整備作業で発見しましたって書いてある。確かに掃除とは書いてないですね。

でだ、保護者向け文書の作成ありがとうございました。事実を知らせることは、GIGAスクールを推進する上で大切なことでありますので、感謝いたします。文章の修正は、ございません。多分、事実関係、これでいいですかと聞いたんでしょうね。事実関係ができない時期でしたので、年度末の整備作業で発見という表記されたのだとご推察します。

これ、誰から誰への文書だと思いますか、知ってるなら教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

こちらでは把握しておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

これはね、今回のタブレット事件について、こういうふうにして、すればいかがですかということで、4月9日、市教育委員会、植木指導主事より、以下の指導を受けたという、学校側の記録ですね、これは。そうしてくれると、とてもありがたいということですね。

いいですか、男子生徒の家から発見されたのを年度末の整備作業で発見する、うその文書を作成して、保護者に配ろうとしたんです。起案者は教頭、決裁者は校長。前校長のGIGAスクール構想に傷がつかないように、教頭が付度し、新校長もそれを容認した。市教育委員会も、うその報告を容認したんです。こっからが、うその積み重ねになっていくと思いますよ、この後のね、展開は。これを認めませんか、いかがですか。連れて来ればどうですか、その指導教諭、いかがですか。

私が、ちょっと、私がうそをついているって思うなら、ちゃんとその本人にそういうことを言ったねとか、こういう文書あるねとかって聞いてきてください。じゃなきゃ、今答えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

お答えいたします。

その内容についても、いじめ問題専門調査委員会の方々からの、それぞれ担当者ごとの聞き取りの内容の中に、それらに触れられるような内容があったと、私も記憶しています。そのような正式な文書みたいなものの中身については、詳細は掌握しておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

中身は掌握してませんじゃないだろう。その件について、把握してごさいませんというのが正しいんだ。掌握したのは、証拠となるタブレットの中身のデータのことじゃないですか。これは消去した。後に警察が入ってくることになるんですが、警察が調べようとしたら、データが全部消えてるんです。これは隠蔽じゃなくて、隠遁と言われたそうですよ。日本語はなかなか難しいんですが。

その後、事件が起こるんです。4月の13日にね、やっぱり性的メールの発信及びタブレットの画像が流出され、また、それに基にしたんであろう、なりすましだとかいろんなメールが飛ばされていった。

もう時間が、もう少なくなってくる。

その後、これ3年生だったんですよね。もう4月以降には高校生になってくる。すると、この状態で、高校と中学をまたぐ大きなSNSのいじめ事件に発展していくんです。分かりますか。これ、従来の今までやってきたいじめ問題とは別なんです。

そこで、その高校時代の話に入る前に、ここで1つ大きな問題があります。中学校と高校は、進学時において情報交換しますね。いろんな問題があった子、また、病気の子供、給食でいろんなアレルギーがあって食べれない子、ピアノを弾ける子、弾けない子と、ちゃんと高校と中学校で引き継ぎといいましょうか、いろんな話合いをします。そのとき、このいじめ事件があったことを把握しながら、高校教師たちに言ってないんです。高校側に何にも言ってない。

したがって、高校では、そのいじめられたとする女の子と、いじめたであろう加害者の子、同じ教室にして、しかも席まで近くしてしまったです。その後、様子がおかしいんで高校の生活指導の先生たちが事情を聴いていったら、こういうことになってるんじゃないかということですね。いかがですか、そこ。いや、私はちゃんとやりましたということを言えるんでしょうかね、これ大体、どなたがやるんですか、現場の学校の先生ですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

3月末に中学校と高校のほうで、児童に対する引き継ぎを行います。SNSの不適切な画像の送信等が分かったのが4月13日ですので、引き継ぎのほうは3月に行っていて、その時点では把握していませんでした。

ただ、中学生のタブレットがなくなったということは、3月では言える話でしたので、その点については、なくなったこと自体を高校のほうにしっかりと引き継ぎをするべきだと、今、反省します。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

今反省されたって困るんですよ。再発防止に全力をって言われたって、困るんですよ。傷ついた生徒、子供たちは、この中にいますよ。あなたがさっき言った、全国平均のやや下の、いじめや不登校の中の、この数字の中に隠れてるんですよ。データ、データというと、私、あんまりデータ論好きじゃないんですけどね。

しかもだ、その後、今度、高校に入って行って、しかも同様の事件を起こしてくるんですよ。だから、これが高校と中学校をまたぐSNSいじめ事件となってくるんですよ。

さてね、ここでやっぱり問題はね、基本的にさ、このGIGAスクールというものを推進していくという考え方と、一つの何だろうな、ネット環境を使っていくという、その情報リテラシーの様々な問題、今、全国的にも世界的にも取り上げられてます。この辺の対応はされたんですか。その後、するようになって、私は指摘したし要求もしたよね。その後はちゃんとやってるんですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

再発防止に向けて、校長会で研修会を行いました。その研修を受けて、各学校で校長から職員に指導する。また、いじめのほうには、親の責務というものが追加されましたので、保護者に対しても年1回しっかりと検証を行う。それから、児童生徒については、学期に一遍、情報リテラシー、情報プランについての学習を行うよう指示したところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

しかし、教育委員会からもらった、このいじめの報告書について、今後の対応について、そういうことは一切書いてません。考えてることと、やっぱり頭の中で考えたことは読めません。しっかり文書にして、しかも、全ての学校や教育者に対して、指導要綱として載せるべきです。

いいですか、オーストラリアではね、とうとう16歳以下のSNS閲覧を禁止しましたよ。これについては賛否があったんだけど、国民の77%がこの法案に賛成したそうです。その素案、背景というのは、もう手に負えないんですよ。親だろうが教師であろうがね。

いいですか、教育長ね、この問題については糸魚川だけじゃないと私も思う。だから日本で、教育界として全体としてどうするか、やはりじっくり考える問題だと思うんですよ。しかも早急に、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

お答えいたします。

今、海外の事例を話されましたけれども、国内、それから県内でも、このSNSによる、要するにインターネットを介した様々な諸問題が連発しています。非常にその対応については、苦慮すべき内容です。なかなか手が届かない世界の中でどういうことが行われているかということが全く分からない、そういう世界です。いまだかつて、私どもがなかなか経験してなかった世界の中が、知らないところで動いてる。非常に危機感を持っています。

したがって、これはやっぱり学校もそうなんですけども、やっぱり家庭の力というふうな部分のところもうんと力を借りないというとですね、なかなか課題解決に向かっていかないというふうな部分で、やっぱりこれは社会的な大きな課題である。しかも教育的な大きな課題でもあるというふうに私は捉えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

だからね、教育長、本当にいいこと言いますよね、教育者として、教育長として。けどさ、教育長、あなた言ってることとやってることが、合っていないじゃないですか。

いつでしたかね、7月1日、実際、調査を行って、今回の被害に遭った生徒からも直接声を聞いてますね。何で私がこんな目に遭わされなくちゃいけないのか。タブレットの画像を利用した1つの画像が、こんなになりましたということをあなたに言いましたよね。あなた、それを全部知って、その場に出たはずだ。だけど、出された報告書には、女生徒の訴えが何にも書いてなかったんですよ。

そこで、その女生徒は、心の底から頭に來たんですよ、本当に。結局、大人は何にもしてくれない。教育委員会は何にもしてくれない。学校は、全てを隠そうとしている。教育委員会に言っただって、何にも駄目じゃないですかと。鶴本さん、あなたどうしました。下向いて、何も言わなかったそうですね。何が子供一人一人に寄り添って、一つ一つのケースについて真正面から向かい合う、付き添う。突き放したんじゃないですか。おかげでその子は、大きなショックを受けて、やはりある程度、病院に行かなくちゃいけなくなった。

てことはだ、今回、皆さんが隠そう隠そうとしていたこの重大事態は、鶴本さん、あなたを守るためじゃないんですか。任期もうじきなんでしょう。今定例会の最後には、その任期をめぐって、是か非か問われるべき、問われるはずですよ。あなた、これしっかり責任取ってきなさいよ。これは自らの責任だと思いますよ。あれだけ立派なこと言って、何もできないんですか。かわいそう過ぎませんか、その子供は。

さらに波及すること19人、なりすましのメールで大恥をかいた。そんな大人にとっただって苦しいのに、小っちゃい子供にしてみれば、もっと大変ですよ。その親は厳格に、小学校時代、スマホを持たせなかったのに、なりすまされちゃってるんですよ。そういった細かいこと、学校に全部、教師に全部言ってますよ、皆さんは。

市長にも言ってますよ。お便り、市長直通便、うちの子がいじめられてます。どうにかしてくださいって、タブレットの件と併せて、なるべく早く解決したいと思いますって、あなたちゃんと答

え出してますね。知らなかったじゃ、すみませんよ。

言っておきますが、教育委員会、糸魚川市じゃない、糸魚川市の中の教育委員会だ。変わったんですよ、教育改正によってね。教育委員長というものが外れて、なくなりました、制度上。教育委員長の代わりに誰が入ったかという、市長、あなたです。各自治体の長が、教育長を兼務することで、私は知らないところで行われましたということを言わさないようにしたんです。それが教育改革だったんです。だから、教育委員会は、何か事があったら、すぐに市長に報告しなくちゃいけない義務があるんだ。それ、やりましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

お答えいたします。

先ほどの古畑議員さんの報告書の中に生徒の思いが何にも書かれていなかったというふうな部分のところのご指摘がありましたが、それは、いじめ問題専門委員会の方々の調査した結果の内容が、その報告書にまとめられていたというふうな内容で、私どもは受け止めてますし、そのように受け止めていただきたいと思います。

ただ、被害生徒から、直接、私は心情を聞く場面がありました。そのときに、私は初めて生徒たちの声を聞いたんですけれども、やっぱり非常に直接話を聞く、それまでは保護者の皆さん方からしか話聞かなかったんですけれども、直接生徒から話を聞いたときに、これはやっぱり初期初動も含めてなんですけども、私どもの対応が、やっぱりいかに生徒たちの心情を害しているかという部分については、非常に深刻に私は受け止める機会になりました。生徒の直接の話を聞いて、私は、再発防止に徹底的に取り組んでいこうというふうな思いを強めたのが印象的です。

それともう一つ、市長にその都度報告したかということのご指摘なんですけども、私は状況に応じながら、その都度その都度、市長にはスピード感を持って、それこそスピード感を持って、丁寧に説明をし、市長の判断を仰ぎながら、それぞれ進めてきた経緯がございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

もう1秒でもオーバーすると議長に叱られますからね。

でもね、スピード感を持って取り組むって言いますけど、この事件の発生は、2022年12月15日ですよ。2年も前だ。市長に、知ったのも全部そうだろう。議会はこの件を、議会じゃない教育委員会がこの件を、遅れた最大の理由は、この件を隠蔽しようとしたことだ。

この件について、上教大については説明しましたか。じゃないわ、上越、何だ。まあいっか、時間ないわ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

細かいことを聞こうとしましたが、もうやめました。時間ないですからね、この件は、また総務文教常任委員会でじっくりと聞かせていただきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（保坂 悟君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

これをもちまして、一般質問を終結いたします。

以上で、本日の全日程が終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

大変お疲れさまでございました。

〈午後3時32分 散会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員